

その二

相撲

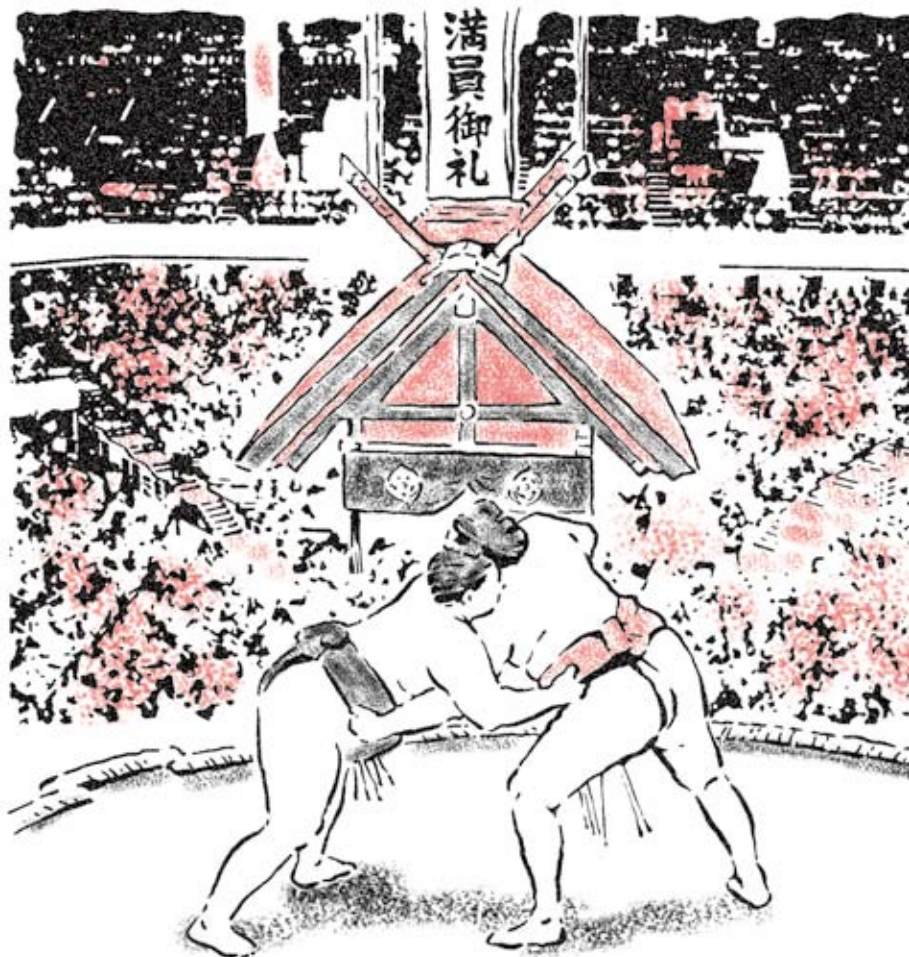
〳国技〳と表されることもある相撲。多くの人がテレビなどで見たことがあると思いますが、実際の大迫力の一番をご覧になったことはありますか？近年は外国人力士の台頭が話題になっていますが、歴史を振り返りながら相撲に関するミニ知識を頭に入れ、ぜひ一度相撲の観戦に出かけてみませんか。

相撲はいつごろから始まった？

日本の伝統文化のひとつである相撲のルーツをたどってみましょう。相撲は、日本最古の歴史書といわれる「古事記」や「日本書記」などの国譲り神話に出てくる神々の力比べが源流にあると言われていきます。奈良、平安時代には「相撲節会」「相撲節」と呼ばれ、五穀豊穡を祈るとともに全国から集められた健児こんざいが競う、競技と儀式を兼ねたものだったようです。ときは変わり江戸時代になると「勧進相撲」の名のもと、寺社の修復の費用を賄うため寺社の境内で興行が行われました。興行は春と冬が江戸、夏が京都、秋は大坂で1場所10日間で行われました。このことから相撲取りは、1年を20日で暮らすいい男〳と江戸では呼ばれるよう

になったのです。また相撲は武芸でもあり、強豪力士のほとんどが藩のお抱えの力士で、江戸中期以降は町人にも人気が高まり、歌舞伎と共に当時を代表する娯楽となってきました。しかし、相撲は武芸のひとつであり勧進相撲でもあるため、女性の見物は許されなかったのです。

明治維新による廢藩置県を経て、大名のお抱え力士というシステムは崩壊します。文明開化の波に、相撲は野蛮な競技という声も上がるなど、相撲は一時的に低迷期を迎えますが、日清戦争、日露戦争の勝利の勢いに乗って人気は回復、明治42年に両国国技館が開館します。昭和に入ると興行日数は昭和12年に13日制、昭和14年に15日制となりましたが、戦争の激化によって国技館は軍部に接収され、昭和20年3月10日の東京大空襲で消失しました。その後、興行は会場を転々とし



力士の番付は図のとおり10の階級に分かれています。角界に入門した力士は、学生横綱やアマチュア横綱を除き、序ノ口、序二段からスタートし、外出着は「お仕着せ」と呼ばれる部屋の名前入りの浴衣に綿かウールの帯に下駄履きです。足袋は履いてもよいのですが黒足袋と定められています。ひとつ位が上がって三段目になると着物が羽織、雪駄（エナメル製）を着用することが許されます。序の口、序二段は真冬でも羽織を着ることが許されていないのです。幕下に上がる

と今まで綿かウールだった帯がようやく博多帯に、そして冬にはコートを着ることが出来ます。この幕下までの稽古まわしは黒と決められており、ここより上の十両以上の力士が関取と呼ばれ、白の木綿まわしを締めることになります。

十両以上の関取は大銀杏のまげを結うことが許され、外出時には紋付の羽織に畳の雪駄を履くことができます。そして土俵入りのときには化粧まわし、本場所で締める絹のしゅす織りのまわし「締込」に、同じ色のさがりが付きます。

横綱
大関
関脇
小結
前頭
十両
幕下
三段目
序二段
序ノ口

ながらも続けられてきましたが、昭和29年に蔵前国技館が完成し、戦後の土俵を沸かせた「栃若時代」「柏嶋時代」の舞台となりました。昭和60年には、両国に再び国技館が開館。千代の富士の53連勝「若貴時代」などさまざまなブームが巻き起こりました。

相撲部屋と力士の生活

力士は横綱を頂点として大関や十両、幕下といった10の階級があります。現在は横綱が最高位ですが昔は大関が最高位でした。横綱とは、大関の中でも横綱免許を持つ大関の名誉称号であり、番付上はあくまでも大関が最高位だったのです。横綱の位が正式に最高位となったのは明治42年のことです。

ところで力士が所属する相撲部屋とはどういふものなのでしょう？現在、相撲部屋は6つの一門、44部屋（2013年7月現在）あります。規模にもよりますが、部屋には師匠と力士をはじめとして、行司、呼出、床山などの裏方さん、また師匠と一緒に指導をするいわゆる部屋つきの親方、日々の生活を支える役割の若者頭や世話人などが一緒に生活する、いわば大家族のような集合体が相撲部屋です。

この相撲部屋で力士はもちろん稽古をしますが、毎日の暮らしの場でもあります。それでは一般的な幕下力士の一日はどうなっているのでしょうか？

とある力士の一日

- 5:00 朝稽古開始。新弟子の場合は一番先に土俵に下りて四股やてっぽうなどの準備運動を終えていなければなりません
- 9:30 稽古を終えたら整理体操を行い、土俵の清掃を行います
- 10:00 シャワーを浴び、床山さんにマグを直してもらい、朝食を摂ります。この間に新弟子はまわしを干さなければなりません。ちなみにまわしは干して乾かすだけで、洗うことはしません
- 11:00 後片付けや掃除が終わったら軽いトレーニング
- 13:00 それが終わったら昼寝です。昼寝も力士の大切な仕事です
- 16:00 夕食の食材の買い出しと仕込み、翌日朝食用の下ごしらえも済ませます
- 19:00 夕食を終えたらリラックスタイム
- 22:00 就寝

もちろん位の違いと本場所や地方場所、巡業などによってスケジュールは変化します。

さあ相撲を楽しもう

大相撲の本場所は年間6場所開催されています。1、5、9月が東京・両国で開催され、3月は大阪、7月は名古屋、11月

は九州です。この本場所の成績は番付に直結していますが、勝敗が番付に関係しない相撲を花相撲といい、巡業や奉納相撲、トーナメントや福祉大相撲などがそれにあたります。

4月の春の巡業は伊勢神宮から始まり靖国神社の奉納相撲まで、8月の夏巡業は北海道や東北など涼しい場所から東京へ戻る日程、10月の秋巡業は中国・四国を中心に九州へ向け南下するルート、12月の冬巡業は九州場所後に九州一円・沖縄など暖かい土地で組まれます。こうしてみると二年のうちかなりの日数、取組みがあることになりましたね。

さて本場所では、現在、地上波のテレビ放送では15時過ぎくらいから中継されていますが、取組み自体は朝から始まっています。序ノ口や序二段などは早い場合は8時30分から始まります。関取と呼ばれる十両の土俵入りは14時30分ころ、幕内の土俵入りは15時50分過ぎころですが、日によって、特に千秋楽など進行時間が変更される場合が多いので日本相撲協会（HP）などで確認した方がよいでしょう。なおチケットは、日本相撲協会HPの「チケット大相撲」のサイトで各種席料や販売状況などが確認できますし、各種プレイガイドで購入することができます。